

Welcome to the サイエンス・ワールド!!

2013, 3, 4(月)
第67号

那覇市立教育研究所
理科通信



「花と昆虫のあま〜い関係」

— 大切な花粉を運んでもらうために —

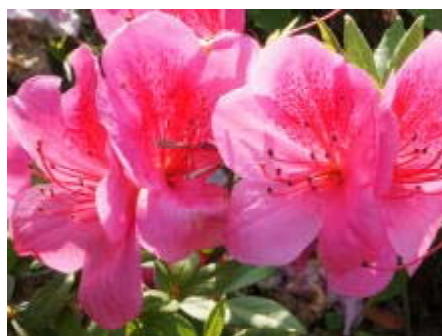
今年も、3月1日から東村のツツジ祭りが始まりました。ツツジの花は、本土なら4月の末から5月中咲いていますが、沖縄では3月が見頃です。さて、動植物の進化の歴史の中で、最初に花を訪れた昆虫は甲虫（カブトムシやカナブンの仲間）だという説があります。

甲虫が花粉を食べるために花を訪れたことが花粉媒介のきっかけを作ったのだと考えられています。そして、花粉媒介を昆虫に依存する花ができると、これを手に入りに利用する昆虫が集まってくるようになります。

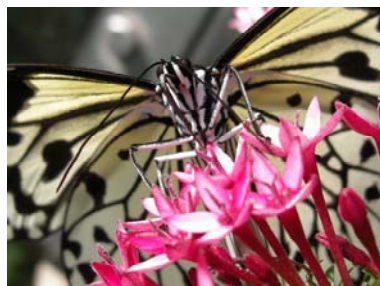
ストロー状の口吻（こうぶん）を持ち、体表が鱗粉（りんぷん）で覆われたチョウやガなども花粉媒介者（ポリネーター）としての役割を果たすようになりました。

また、低温期に開花する植物には、低い気温でも活動できるハチやハナアブなどが重要なポリネーターとなりました。そうすると、花たちは花粉を運んでもらうために、花が目立ち、その存在をアピールする必要が出てきます。昆虫はすべての花に同じように訪れるわけではないからです。

さて、ツツジの花には、蜜標（みつひょう）というはん点模様があり、チョウやガは蜜標を目印にして中央の筒状になっているところに長い口吻を差し込んで蜜をすいます。チョウやガの体は鱗粉に覆われているので、普通は体表に花粉はつかないけど、ツツジの花粉は細い粘糸（ねんし）でつらなっているので、彼らの体表にもついて運ばれていくのです。このような蜜標は、ツツジ以外の花にも多く見られます。皆さんも、身の回りの花で蜜標があるものを探してみませんか。



シロテンハナムグリ



オオゴマダラ



ミツバチ

(文責：玉村かおり)